

風"s・風のたよりオンライン版

2008/6/6 No.133

風のたより133号 ピースボートより その4 紅海にて

フォーカス中東戦争(13)

イスラエルの若者の決断～憎しみの連鎖を超えて～

第2の寄港地シンガポールをでてから、オマーンのサララ、そして明日夜寄港するヨルダンのアンマンまで、ピースボート事務局が「フォーカス中東戦争」と題して、フォトジャーナリストの豊田直巳さん、またアンマンから乗船のP L Oのワシム・カズモさんの講演を交えて15回シリーズを企画した。今日はその(13)、夕方からは(14)ワシムさんの「パレスチナに希望の光を」と題した講演がありました。

■ イスラエルの徴兵制を拒否する若者たち

兵役拒否の50分ほどのドキュメンタリーを見て、平和への光が見えはじめたかのように思い、心に目にジーンとききました。若者たちが平和の鍵を握っている！

話の内容は、18歳になるとイスラエルでは男（3年）女（1.9ヶ月）とも徴兵制により入隊しなければならないが、暴力では平和は築けないと、兵役を拒否した62人のうちの一人の若者、ヤイール（Y a i r H i r o）さんを追った内容。

誕生日がすぎた2週間後に徴兵の通知が届き、翌日朝出頭というあわただしさだった。軍隊とはこんなものかと思う。兵役拒否するということは、裁判の後、刑務所に入らなければならない。また非国民扱いで、将来公職には就けない。

4週間刑務所に入り、一旦自宅に帰るが、その後また裁判をして拒否すればまた刑務所、これらを一年くらい繰り返す。

■ 暴力では平和は築けないというイスラエルの若者たち

「兵隊になりって、殺したくないし、殺されたくない」と彼は言う。きっかけは2000年10月に見た市街戦で物陰に隠れたパレスチナの親子の恐怖に満ちた姿をTVで見たことがきっかけだった。この映像は私も見た覚えがあるので世界にむけて発信されたのでしょう。

彼の父親は他国からイスラエルに来た人で、やっと自分たちの国にいるのだから国

を守らなければならないといまたその父親からの教えで、兄弟三人とも最もつらい訓練ののち配属されるパラシュート部隊に入って、国を守ったことに誇りを持っている。

当然息子の行動が理解できず苦悩する姿がそこにあった。息子にとっても父親との意見の違いは苦しいに違いない。しかし息子はネットでつながった若者たちと絆を深めながら、ある時は、山の上から自分たちが入らなければならない刑務所もみんなと一緒に見に行った。ヤイールが予定より2ヶ月も早く召集を受けたその日、仲間たちは刑務所の前に集まり抗議のアピールをした。警察官がでてきてかれらを排除しようとしていた。

■ 「勇気をたたえたい」という老婦人の声

12月29日エルサレムで5000人の人たちが集まって、パレスチナへのテロへの報復を停止し、完全撤退を求めた。ヤイールの仲間もメッセージを発表した。そして、ヤイールが招集される前日に友達に送ったメッセージが書いてある葉書（片面には彼の顔写真）を配った。ある車椅子の老婦人はその若者たちに「これから強い力を持つ可能性がある」と彼らの勇気をたたえた。

■ 150通の手紙

ヤイールが火傷をしたということで、早めの帰宅が許された。その時リュックには150通の手紙が入っていた。世界から彼を励ます手紙だ。手紙の力、こんなところにも私たちができることはあるのだと思った。また今、メールの持つちから（いい方向に使いたい）を私たちは持っているのだと思った。

■ イスラエル予備役兵も兵役拒否

10日間で170人、将校もその中にはいる。2月9日テルアビブで1万人の市民が軍のパレスチナ占領を反対し、兵士たちがいかに自分たちがパレスチナの人たちを苦しめているかを自分の体験から語った。ガザ地区・ヨルダン西岸地区への兵役を拒否する人も出てきて、330人以上の予備役兵が兵役を拒否した。

■ 異文化の対話と平和に貢献したとして2003年エルサレムにて「シオン山賞」が二人の若者に

二人の出会いは、2001年の第33回ピースポート。NGO「パレスチナビジョン」の代表として子どもに娯楽を提供したり、世界にパレスチナの現状を訴えてきたラミ・ナセルディン（男性当時26歳）と、イスラエルの兵役を拒否し平和運動

「ニュープロファイル」をリードしてきたケレン・アサフ（女性、当時22歳）である。武力を探る二人でも、船内で互いの意見は食い違い、けんか続きの毎日だった。同じく乗船していた旧ユーゴスラビアの若者や参加者と接する中で、二人の間に対話が生まれた。そして帰国後、二人の出会いは団体同士の交流へと広がり、今でもパレスチナ人・イスラエル人共同での平和活動が続いている。

■ 「シャローム・サラーム」を歌うふたり

ラミとケレンは船上で互いのアラブ語とヘブライ語で平和という言葉の歌を作った。来日もしたそうで、ピースボートのいままでの軌跡をみると、目を見張るものがある。今回この旅でこんな講座があるとは「つゆ知らず」、毎日毎日記録するものの、それ以上の速さで講座が進んで行く。まさに、地球大学に入学したかのようです。

■ 地球大学での自主企画

これもまた多彩多彩でびっくり！ セーブ・セーブして今は2つ。和太鼓と船上のフラダンス。体を動かすいい機会なので、体育の時間としています。どこまで報告ができるかわかりませんが、私に今できることは私が学んだこと、感動したことをお伝えしたいと思っています。

電子メール : huzu@huzu.jp

ウェブページ : <http://www.huzu.jp/>

風の交差点 風"s